



■六甲山「スズタケ」開花■

120年に一度咲く「無性生殖」でとされるササの一種 増える。

「スズタケ」の開花が、開花後2カ月ほどで神戸・六甲山の登山道実をつけ、熟すと地面で確認された。専門家に落下。冬を越して春になると、群落として発芽し新しい個体を寿命を迎えると花を付けるという。

イネ科ササ属。紫色の穂から黄色い雄しべが垂れ下がり、花びらはない。根を張り巡らせて芽を出し、細胞分裂により、全く同じ遺伝子を持つ個体を新たな灘区本山町森」と、石

切道の上部(灘区六甲山町)で開花が確認された。植物生態学を専門にする人と自然の博物館(三田市)の石田弘明主任研究員(45)は「六甲山での広域の開花は聞いたことがなく珍しい」とする。

とはすべて枯れ、数年かけて元の姿に戻るが、開花は120年に一度といわれている。六甲山では、住吉道の本庄堰堤から麓へ1〜2キロの間(神戸市東灘区本山町森)と、石

(笠原次郎)

120年に一度の神秘

黄色い雄しべを垂らして咲くスズタケ―神戸市灘区六甲山町

.....NEXTに動画